嶺村文書目録解題

上越市大島区大字嶺地区に伝えられた290点余りの資料群である。

『大島村史』編さん時の教育長であった高橋英夫氏は、「嶺村文書」が以前は「旧嶺村役場文書」という名称だったことを指摘している（「文書が遺す嶺村の歴史資料集」）。本文書群は嶺村共有の文書として伝来した可能性が高いと考えられる。

嶺村は鯖石川水系の石黒川上流の谷あいに立地しており、近世を通じて刈羽郡に属していた。近世初頭には高田藩領であったが、越後騒動以後は幕府領となった。幕府の直轄支配ではなく、高田藩・長岡藩・白川藩・桑名藩の預所とされたため、頻繁に支配代官所が変わっている。頸城郡に郡界替えとなったのは、明治11年(1878)の郡区町村編制法が施行されて以降である。嶺村の庄屋役は長期間にわたって兼帯庄屋として隣村の庄屋が勤めた。

『大島村史』編さん時には60点程を選び目録を作成したが、それ以外は未整理のままであったことから、公文書センターでは新たにすべての目録作成を行った。

文書のほとんどが、近世の村政に関する年貢割付状、年貢皆済目録、宗門人別帳などや明治期の地租改正時の官有地問題にかかわる資料であり、質地証文や金銭借用証文などの私的な文書は見られない。主な文書は以下のとおりである。

【年貢皆済目録】　明和7年(1770)から明治5年(1872)までの103年間のうち85点が残る。この他に「年貢勘定目録」が11点ある。村役人が役所宛に年貢を皆済した旨を届け出たもので、巻末に預地所管の藩役人の奥書が記される。他にはあまり見られない形式の文書である。

【年貢割付状】　延享2年(1745)から明治5年(1872)までの128年間のうち99点が残る。

【宗門人別帳】　幕末から近代にかけて13点が残る。資料番号1457-12-1と1457-13-1の2点は、明治政府に提出した人別取調の控え記録で、内容も詳細で当時の村の状況を知ることができる。

【官有地・民有地問題資料】　嶺村では、地租改正時に村の秣場として入会地だった土地を官有地としたため、農業生産に大きな支障が出た。そのため、明治29年前後から、私有地に登録し直すことを求める請願運動を、村を挙げて行い、それに関する膨大な資料が残されている。

【検地帳】　嶺村の天和検地帳〔資料番号1457-121-1〕のほか、周辺の新田検地帳が5冊含まれている。

【その他】

・宝暦11年(1761)付「乍恐以書付願上候」〔資料番号1457-147-1〕
　女谷村の兼帯庄屋を改め嶺村から庄屋役を出したい旨の願い出。

・宝暦10年(1760)付「乍恐以書付奉願上候」〔資料番号1457-31-1〕
　長岡藩預地から高田藩預地への領知替えは、郷蔵の組合村が分断されて上納に支障がでるため、沙汰止みとしてほしい旨の願い出。

・明治14年(1881)付「伺上候」〔資料番号1457-161-1〕
　コレラ病死者が出たため、特別な埋葬地造成の許可願い。

【参考】　高橋英夫氏は、嶺地区の歴史・民俗・口承などを詳細に調査し、「文書が遺す嶺村の歴史資料集」(A4版359頁、平成25年に公文書センターへ寄贈)をまとめた。嶺村に残された「旧嶺村役場文書(現「嶺村文書」)」「内山英世家文書」「内山弘夫家文書」を紹介するとともに、文書の翻刻文を掲載している。